

◆ 操法の流れ

操法は、5人の選手によつて行われ、第1線、第2線と2本のホースから水を出し放水します。

◎ 指揮者は、全体の指揮をする。

◎ 1番員は、第1線において、いち早くホースと筒先をかついで火点に向かい消火する。

◎ 2番員は、1番員の補助と、第2線においてホースと筒先をかついで火点に向かい消火。

◎ 3番員は、吸管を水槽に入れ、トビをもつて火点へ。第2線ではホースを伸ばし2番員の補助を行う。

◎ 4番員は、機関員で

た消火活動をしているとは知らなかった。もっと多くの方に操法大会に見学に来ていただくといひ。」と語っていました。

その日の午後、藤久保6区でまちづくり懇話会が開催され、数年前の川越街道沿いの材木屋の火災を契機に、防災に関心をもち、自ら作った防災マップを発表された方がいらっしやいました。すでに、年末の歳末警戒等消防団と行政連絡区との合同の歳末警戒が実施されていますが、今後地域との結びつきを更に深めていくことが大切であると考えます。三芳町消防団では、ラッパ隊や女性

車輛のポンプの操作を行う。水出し操法では、圧力調整等高い操作技術が求められる。

当日は、消防団員のご家族やOBの皆さんが応援に駆けつけ、声援を送られていました。

三芳町のある行政連絡区では、毎年三役が、応援にいられています。新たに消防団から招待され、初めて操法を見たという区の役員の方もいらっしやいました。

その方は「実際の火災現場では、どうしても燃え盛る建物に目が行ってしまいが、その背後で消防団の皆さんが、こうし

消防団など様々な取り組みを実施。操法についても、三芳町は伝統があり、数年前の埼玉県の操法大会では準優勝に輝き、支部の大会でも例年上位を独占しています。(左記、今年の順位結果です。)

普通ポンプ車の部 (18分団)	
優勝	三芳町消防団第2分団
準優勝	三芳町消防団第4分団
第3位	三芳町消防団第3分団
富士見市消防団敢闘賞	富士見市消防団第5分団
ふじみ野市消防団敢闘賞	ふじみ野市消防団大井第4分団
三芳町消防団敢闘賞	三芳町消防団第1分団
小型ポンプ積載車の部 (富士見市のみ5分団)	
優勝	富士見市消防団第1分団
準優勝	富士見市消防団第4分団



⑦第2線放水開始の伝達、2番員と3番員



⑤第1線を放水し、火点的を倒す1番員



③ポンプを操作する4番員(機関員)



①指揮者が操法開始の報告



⑧第2線も放水、トビを持つ3番員もそろ



⑥第2線のホースを延長する2番員



④ホースと筒先をかついで火点へ走る1番員



②吸管を伸ばし水槽に入れる3番員